



# くれよん



2014年 11月号

初雪の知らせも届くこの頃です。みなさん、タイヤ交換はもう済ませましたか？  
私は、先日、車を点検した際、一緒に交換してもらいました。「いつ降るかな？」と不安がるよりも、やることをしておけば、いつ降っても安心ですね。

さて、幼稚園・保育園や学校では、学芸会や生活発表会の時期です。内容は、子どもたちに大人気の『アナと雪の女王』が主流なのでしょう。『ありのまま』は、私の好きなことばの一つです。

先日、フィギュアスケートを引退した、高橋大輔選手のコーチへのインタビューの場が報道されましたが、とても心に残ります。高橋選手は試合に出場する時、「どきどきする子」だったようです。その高橋選手に、コーチは「ありのままでもいいよ」と言いました。

「失敗しないように」と言えば萎縮し、「頑張るって」と言えば力み過ぎるということでしょうか。「ありのままでもいいよ」と言うことばは、子どもが本来もっている力を最大限に引き出せる、魔法のことばなのだと思います。



でも、お友だちに意地悪をする子に対して、「ありのままでもいいよ」とはなりません。子どもたちの気持ちを理解して、行動を修正してあげることが必要であることは付け加えておきたいです。

## 人・まち・食・健康フェスタ

11月15日(土)、りふれにて『人・まち・食・健康フェスタ』が開催されます。  
子ども支援係も、フリーマーケットやカフェを開く予定です。ウォークラリーもありますよ。



遊びにきてね!

\*詳細は町からのお知らせをご覧ください。

## 児童相談所巡回相談

12月4日(木)、岩見沢児童相談所による巡回相談が予定されています。  
発達の確認を含めて、相談の希望がある方は申し出てください。

締め切り 11月18日(火)

◆人数が多い場合は、優先順位を付けさせて頂き、次年度(6月頃?)に願うすることもありますので、ご了承ください。



## 発達障害とは

<引用文献>「わが子は発達障害」 ミネルヴァ書房  
内山登紀夫 明石洋子 高山恵子 「編」

発達障害の厳密な定義は専門家によって異なりますが、専門家間のコンセンサスは以下のようです。

- ① 生まれつきの脳の機能障害が原因であること
- ② 障害の特徴が発達期に明らかになること
- ③ 基本的な障害特性が生涯続くことが多いこと

以上のように定義されます。2012年に、文部科学省によって全国各地で行われた大規模な調査では、発達障害の疑いのある児童生徒の割合が、6.5%と推測されました。

障害名としては、「自閉症スペクトラム障害(広汎性発達障害)」、「注意欠陥多動性障害」、「学習障害」の3障害を総称して「発達障害」と呼ぶことが多いのですが、「精神遅滞」も含めることもあります。

### ◆自閉症スペクトラム

社会的交流やコミュニケーションの発達に偏りがあること、こだわりや興味の狭さ、聴覚や視覚、触覚などの過敏さや鈍感さがあることで定義されます。知的な遅れを伴うことも、伴わないこともあります。

### ◆注意欠陥/多動性障害(ADHD)

不注意、多動、衝動性の3領域の行動特性によって定義される発達障害です。これらの特性は児童期においてごく一般的にみられる特性ですが、ADHDの場合は、多動や不注意の程度が強いことや、一時的ではなく長時間続くことなどが特徴です。

### ◆学習障害(LD)

①読むこと ②文章を理解すること ③書くこと(文法や句読点の間違い、段落わけができない、考えを文章で明確に表現できないなど) ④計算などの苦しさがあること、などが特徴です。

これらの発達障害の原因は、脳機能の発達の偏りなのですが、そのことが十分に理解されていません。いただいた手記の中には、「しつけが悪いと言われた」「親の愛情不足だと専門家に注意された」と、周囲の人や専門家から言われて傷ついた体験を述べられています。

発達障害の子どもたちは、発達に偏りがあるために、集団場面で十分に能力が発揮できないことがあります。子どもたちは懸命に努力しているのに、その努力を教師などの大人に認めてもらえないことも多いのです。懸命に努力しても結果がでないと「やる気がない」とか「ふざけている」などのように誤解されやすいのです。子どもに対して「もっと厳しく対応するように」とか「叩いてでもやるべきことはやらせるように」という助言を受けたという手記もありました。

発達障害の子どもにとって最も重要な支援は、子どもたちが、自分の持っている能力を発揮しやすい環境を設定すること、どのようにすれば困った事態を改善できるのかについて、具体的な方法を考案することです。ただ「頑張れ」と励ましたり、叱責するだけでは子どもを追い詰めてしまうこともあります。

支援の基本的な考え方については、英国自閉症協会が提唱している SPELL という理念が参考になります。Structure(構造)、Positive(肯定的)、Empathy(共感)、Low Arousal(穏やか)、Links(繋がり)の5つの頭文字をつなげたものです。

『構造』は少しわかりにくいかもしれませんが、子どもにとってわかりやすい環境設定をすることです。『肯定的』というのは、子どもを否定したり叱るのではなく、良いところを褒めるなど、肯定的な接し方をすることです。『共感』は発達障害の子どもが直面している辛さや不安感などに共感的に接すること、『穏やかに』は大声をあげて叱ったりするのではなく、穏やかに接すること、『繋がり』は社会との繋がりを大切にすることです。

手記を読んで、今の日本の発達障害の子どもとその家族は、周囲の人々の無理解のために「子どもにとってわかりにくい環境設定」で、叱責や非難など「否定的」で、「穏やかとはいえない対応」をされ、世間からは孤立した状況で懸命に努力している様子うかがえましました。発達障害に関する正しい知識や支援方法を啓発していく必要性を強く感じました。



お母さん達の体験をまとめた本です。

教室に本を置いてあります。  
関心のある方は、貸し出しを致しますので、お伝えください。